

# サービスの信頼性・透明性の向上に向けて 「簡易見積シミュレーションツール」を導入

2020年5月に「水道標準プラットフォーム（PF）」の提供を開始してから約3年が経過しました。この間、ユーザーからの反響や要望をふまえ、サービス強化に努めてきましたが、その一環として2022年12月に「簡易見積シミュレーションツール」を導入しました。今回は同ツールの関係者にインタビューを実施しました。

## ■ 水道事業者様のPF導入に関するご検討を後押しするために

— まずは簡易見積シミュレーションツールを開発された狙いや背景についてお聞かせください。

**石崎** 水道標準PFは、お陰様で多くの注目を集め、現在までの導入問い合わせは全国で約1,500件に達しています。一方で、提供を開始した当初から費用面でのお問い合わせを多くいただいており、導入に際してのご検討を容易にできるよう、導入費用を分かりやすくお伝えする必要があったと感じていました。

**橋本** ご存じの通り、水道標準PFの導入費用は当社が提供する領域と、水道事業者様が選定される各アプリケーションベンダーが提供する領域にまたがっており、事前の価格算定が難しい側面がありました。こうした事情は水道事業者様でもご理解いただいているものの、組織内で決裁を得るにあたっては、やはり見積りが不可欠です。そこで、より簡便かつスピーディーに見積りを提供できるよう、シミュレーションツールの開発を進めました。



取材に協力いただいた水道プラットフォーム事業推進部の皆さん。写真左から、取締役副部長の石崎洋さん、同部水道プラットフォーム営業部営業第二課長の綾部順一さん、同部水道プラットフォーム営業部長の橋本和人さん。

## ■ 「利用しやすさ」と「正確さ」を両立するための工夫

— 簡易見積シミュレーションツールの開発に際して、特に工夫されたのはどのような点でしょうか。

**綾部** まず、重視したのが「誰もが容易に利用できること」でした。水道事業者様のご担当者のIT知識レベルは千差万別で、ITに関する知識・経験が豊富な方もいれば、あまり経験のない方もいらっしゃいます。後者の場合に、必要となるサーバーの詳細スペックなどを質問しても、容易にはご回答いただけず、途中で諦めてしまうことも考えられます。そこで、給水人口や対象システムなど、最低限の質問にご回答いただくだけで算定できるような仕組みとしました。

**橋本** 一方で、見積りの金額が曖昧だったり、現実離れたものになったりしては意味がありません。そこで、サーバーのスペックなどが不明な場合でも、当社が蓄積した統計データを駆使して高精度なシミュレーションを実現できるよう工夫しました。もちろん、回答が必須ではない詳細な質問にご回答いただければ、より精緻な見積りが算定できます。こうした工夫によって「利用しやすさ」と「正確さ」を両立できるシステムを目指しました。

**綾部** 結果として、ご利用いただいたユーザーから「使いづらい」「分からない」といった声はほとんどなく、満足いただけるツールになったのではと感じています。

(図) 簡易見積シミュレーションツール利用の流れ



## ■ 簡易見積シミュレーションツールが 水道業界の健全な発展をもたらす

— ツールの提供に対するユーザーからの反響はいかがでしたでしょうか。

**石崎** 全国6カ所で説明会を開催したほか、Webセミナーや業界新聞等で告知に努めたことで、ツールの認知度は高まっており、全国の水道事業者様から好意的な声をいただいています。

**橋本** 実際にご利用いただくケースはまだ多くありませんが、これまで頻繁にあった導入費用についてのお問い合わせが極端に少なくなりました。「必要があればスピーディーに概算の見積りを入手できる」という安心感を与えるとともに、PFの費用に対する透明性や信頼性を高める効果があったと感じています。

**石崎** 導入検討時の見積りを容易にするということは、PFのユーザーである水道事業者様にとって、複数ベンダーから見積り提示やソリューション提案を受けられる環境が整うことになり、アプリケーションの機能や費用対効果の比較検討を容易にするというメリットにつながります。一方で、PFに搭載するアプリケーションを提供するベンダーの皆様にも、これまで接点のなかったユーザーを取り込むチャンスをもたらします。

**綾部** 実際、ツールの開発に際しても、こうしたベンダー側の事情をふまえ、ご理解を得ながら進めてきました。ベンダーの反応はさまざまでしたが、前向きにとらえていただくベンダーも少なくなく、なかには当社と連携してアプリのカタログ化を進めるベンダーもあり、業界全体の透明性向上につながっていると感じています。

## ■ データ利活用を後押しするため、 さらなるサービス強化を図る

— 水道標準PFについて、今後の取り組み方針をお聞かせください。

**石崎** 見積シミュレーションツールの提供にとどまらず、今後も水道事業者の皆様の立場に立って、幅広い観点からサービス強化に努めていきたいと思っています。なかでも現在、具体化しつつあるのが、データの利活用です。

**橋本** データ利活用の促進は、もともと水道標準PFの開発目的でもあり、「データはユーザーのもの」というコンセプトのもと、PF内に蓄積したデータを、システムを問わず容易に活用・分析できるような機能を提供できるよう、現在、開発を進めているところです。

**綾部** 水道事業者の広域連携が進む中、そのための環境を整備するために、見積シミュレーションツールやデータ利活用へのニーズが高まってきていると感じています。水道事業の発展と、その先にある生活者の皆様の暮らしを支えるために、システム面から広域連携による業務の高度化・効率化を後押ししていきたいですね。

**石崎** 年度内には何らかの成果を発表できると思いますので、是非、ご期待いただければと思います！

### ●お問い合わせ

株式会社 JECC 水道プラットフォーム事業推進部  
TEL : 03-3216-3605  
MAIL : jecc-wsp@jecc.com  
<https://www.jecc.com/service/list/ws-platform.html>

所属部署・役職等の肩書は2023年5月現在のものです。



**現地作業はすべてお任せ！**

オンサイトデータ消去サービス    アンラック・解体サービス    撤去・引取サービス

**フィールドサービス**

現状復帰サービス    設置・設定サービス    オフィス移転サービス

ご用命は  
こちらまで！

JECCグループ  デジタルリユース株式会社    フィールドビジネス課    ☎ 03-5740-8312    ✉ sales\_fb@digital-reuse.com